

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101943		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協 グループホームしまど		
所在地	山口県下関市豊北町神田4611-2		
自己評価作成日	平成23年9月6日	評価結果市町受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを自然に囲まれ、ゆったりとのんびりとした静かな環境の中で生活しています。入居者の方の制限をすることなく、その方その方にあった対応ができるよう努力しています。運営推進委員会を中心に地域の方々に支えられているホームで夜間時には、お泊りボランティアとしてホームに泊まって下さっています。(月に何日かではありますが……)また、猫の「タマちゃん」が同居していて入居者や職員の心を和ませてくれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったりとのんびりとその人らしく笑顔をもって 家族や地域の方との縁を大切に」という事業所の理念にそって、優しい笑顔で利用者のケアをされている職員の傍で、一人ひとりが自分のペースでゆっくり穏かに過ごしておられる様子が伺えました。隔月毎に開催される運営推進会議には、たくさんの地域の方が参加され、事業所主催の夏祭りの打ち合わせや各種行事への参加、災害対策、行方不明への対応、地域との協力体制についてなど、活発な意見交換をされており、事業所と地域住民が一緒になってサービスの向上に向けて取り組まれています。職員は日々のケアの中でヒヤッとしたことをヒヤリはっと報告書に記録して、職員間で対策を話し合わせ、共有して事故防止に取り組まれる他、年1回全ての職員を対象にして救命講習を実施されるなど、事故発生時の備えにも取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりとのんびりとその人らしく笑顔をもって 家族や地域の方との縁を大切に」を目指し、毎朝のミーティング時に職員で唱和し、日々のケアに取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作り、掲示や唱和をして理念の共有をし、地域との関わりが深まるように理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事や清掃作業にも参加している。また、地域版のホーム便りを発行し地元自治会に回覧している。	地域の春と秋の祭りに参加したり、事業所主催の夏祭りに地域の人の参加があり、交流している。夏祭りでは利用者が銭太鼓の演技を披露して楽しんでいる。老人クラブとの交流や畑づくり、タマちゃん喫茶(月1回、数名の地域の人の参加がある)、お泊りボランティア(月4回、6名が2名づつ交代)などで、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭り等で、共に過ごす時間の中で認知症の人の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前年度の外部評価を回覧し、職員全員で話し合い評価を活かした改善に取り組んでいる。	評価の意義について説明し、職員から意見を聞いて管理者と計画作成担当者が自己評価をまとめている。自己評価に対する全職員の理解が不十分である。前回の外部評価結果については、できるところから改善に取り組んでいる。	・自己評価する意義についての全職員の理解と実施
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し外部評価の結果や施設の現状報告等をし、意見を聞きサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、多くの(28名)メンバーの参加で会議を開催している。各種行事への参加の依頼や夏まつりでの協力体制、災害(火災、地震、水害)対策、行方不明への対応など、積極的に意見交換をして、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者も運営推進会議に毎回参加され、事業所の取り組みについて伝え協力関係をもっている。また、職員の内部研修に市の保健師を講師として招く等、交流を持つようにしている。	市担当者とは運営推進会議の他、電話や出向いて連絡を密に取っている。市の保健師を内部研修の講師として派遣してもらったり、相談し助言を得るなどしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々職員間で話し合い、ホームに身体拘束・排除宣言を掲げ、玄関を施錠しないことを含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ケア会議や朝のミーティングなどで話し合い、職員は身体拘束について理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員内部研修で在宅介護支援センターの職員を招いて研修を受け学び、日々のケアの中で職員間で意識して気をつけている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持つに至っていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族に契約書や重要事項説明書について説明し理解・納得を図り、また改定の際には家族会開催時に説明をし理解を求めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付や処理手続きは、速やかに行なわれるようにしている。意見や要望については、ホームに気づき箱を設置し意見等を聞くことができる体制をとっている。	電話や面会時、運営推進会議、家族会(年3回)などで、家族から意見や要望、相談、苦情等を聞いて運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞くようにしている。(ケア会議時にも提案を聞く機会を設けている。)	朝のミーティングやケア会議など、常に職員から意見や提案を聞く機会があり、出された意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や勤務状況、また職場環境・条件の整備等努めているのかもしれないが、できているとはいえない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には勤務の一環として参加し、他の職員には復命の機会を設け、内容を共有している。	外部研修の情報を職員に提供し、段階に応じて参加できるように支援している。受講者は復命報告をして全職員で共有している。内部研修は担当者を決め、月1回テーマ別を実施している。働きながら知識や技術が学べるよう支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会の研修や交流会への参加等、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階の前に、本人に面会しゆっくり話を聴く機会を設けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階の前に、ホームに見学に来られた際や面会時に、不安なことや要望等を聴くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族の思いや困っていることをしっかりと聴き、必要に応じて他のサービスの紹介もしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫を一緒にする時には、縫い方を利用者が職員に教えたりして、出来上がりを共に喜ぶ関係を作っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や夏祭り等に参加していただき、共に過ごされる時間を多く持つようにし、本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	タマちゃん喫茶等で地元の方が来訪しやすい環境を作ったり、本人の故郷へのドライブ等の支援をしている。	自宅周辺へのドライブ、友人の家に遊びに行く、馴染みの店で買物、入居後、馴染みになった人との交流など馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良し同士の関係を職員が把握し、時にはさりげなく声かけをして、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、広報を送ったり、相談が入る時には支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から本人の希望や思いを把握し、また家族からも情報収集し、ケア会議や朝のミーティング等で検討している。	日常の関わりの中での利用者の言葉や行動、表情から読み取ったことなどを介護記録に記録して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や日常生活の中で、本人や家族から聞き取りをし、その方にあった暮らし方が提供できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やバイタルチェック表などで、心身の状態の把握に努めている。 毎朝の顔色をしっかりとみることも気をつけている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議時に家族にも参加していただき(全家族ではないのだが)、意見や希望を聴いている。 本人がより良く暮らせるよう意見やアイデアを出し合って、介護計画書を作成している。	毎月1回ケア会議を行い、家族の参加も得て話し合っている。家族が出席できない場合は、面会時や電話等で聞いた意向や、かかりつけ医からの意見を参考にして、利用者の要望や状態を含めて話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月のモニタリング、6ヶ月毎の見直しを行なっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づき、日々のサービス内容に対し個別記録をし、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の支援、なじみの美容院への付き添い等柔軟な支援ができるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時や地域の祭りに参加の際に、運営推進委員の方々やお泊りボランティアの方々が、声をかけて下さり、本人が会話を楽しむことができています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別にかかりつけ医の往診があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	これまでのかかりつけ医や協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援や往診（個別に2週間毎か1ヶ月に1回）が受けられるように支援している。他の診療科や緊急時、必要に応じての受信にも対応し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内のデイサービスに看護師が常駐しており、必要に応じ気軽に相談できている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、情報交換や相談をしっかりとっている。また、退院後に気をつけることなど、主治医に必ず確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期のあり方については、家族会や来訪時に話し合う時間を持ち、ホームの方針を共有していただいている。	入居時に事業所の方針について説明し、重度化した場合の移設先への申し込みなどについて家族と話し合い共有している。実際に重度化した場合は、家族や医師、関係者で話し合いを行い、他施設への移設を支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日々の関わりの中で、職員がヒヤッとしたこと等報告書を書き、職員間で事故防止に取り組んでいる。 急変時の対応に備え、消防署の協力のもと研修や訓練をしている。	ヒヤリはっと報告書に記録し、対応策を検討し、職員間で共有して事故防止に取り組んでいる。全ての職員を対象にして、救命講習を年1回実施している。行方不明時の連絡には地域の協力が得られている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との避難訓練や緊急連絡網等で、協力体制を築いている。	年2回(夜間想定を含む)避難訓練を地域の人(運営推進会議メンバー18名を含む)と一緒に実施している。災害時の緊急連絡網や行方不明時の連絡網等を作り、協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ケア会議で話し合い、利用者一人ひとりの尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の働きかけで自分の思いや希望を表し、自己決定してもらっている。(洋服や飲み物等)		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者同士の会話の中から、「天気がええね」「どこか行くとええね」という言葉があれば、希望に添える支援をするよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに家族の協力も得て、衣類の整理をしている。 ホームに2ヶ月に1回訪問美容師が来る。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや盛り付け、食器拭きや下膳を利用者と職員が一緒にしている。食事と一緒にするよう努めている。	週2回の昼食を事業所で作っている。野菜の下ごしらえ、お盆拭き、食器拭き、食器洗いなど利用者のできることを一緒にしている。利用者の好みを聞いたり、行事に合わせての献立や外食など利用者が食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量は個別に記録しチェックしている。一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態を考えている。(お粥、刻み、とろみ剤の使用、お茶ゼリー等)		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後できている利用者は1～2名だが、夕食後は全員口腔ケアをし、義歯は預かり消毒をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、一人ひとりの排泄パターンや排泄サインを把握し、自立に向けた支援をしている。(ポータブルトイレの使用も含めて)	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や寒天、繊維質の食材を取り入れるよう心がけている。日々の生活の中で、散歩や軽運動ができる時間を持つよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通常、午後に入浴を行なっているが、一人ひとりの希望や状況に応じて午前や夕食後等にも柔軟に対応している。入浴剤を使用して温泉気分を味わっていただくこともある。	入浴は一日おきの午後に行い、一人ひとりの状態や希望に合わせてゆっくり入浴が楽しめるように支援している。年1回温泉に出かけている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に合わせて、休息支援をしている。また、安眠できるようシーツや布団の清潔に気をつけている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からもらっている服薬表を職員全員が見て把握している。 症状の変化があった場合は、すぐに主治医につなげている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タマちゃん喫茶や地域の保育園児や小学生との交流がある。 今年度は、夏祭りで日々練習した銭太鼓を披露した。	歌、テレビ、体操、習字、貼り絵、ぬり絵、縫い物(ハンカチ、ウエスづくり)、服のリフォーム、風船バレー、銭太鼓、食事の準備、後片づけ、草取りなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者一人ひとりが張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の希望に添って、買い物や家族との外出などを行っている。また、家族や地域ボランティアの協力で法事に出席したり、バス旅行に出かけたりしている。	周辺の散歩、スーパーなどでの買い物、花見(桜、菖蒲、紫陽花、コスモス等)、梨狩など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの預かり金の中から、家族に了解を得て、職員が同行し買い物ができるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に電話を使用できる体制をとっている。手紙のやり取りは、今現在は1名のみされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、窓ごしに鑑賞できるように花を植えたりして居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	自然の明かりを採り入れる工夫がしてあり、大きなガラス窓から眺められる広い庭や木々、花々に季節の移り変わりを感じることができる。リビングは広く、ソファや多機能テーブル、椅子が置かれ、廊下にも腰掛やテーブル、椅子があり、利用者が思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごせるよう、ソファや椅子を居間だけでなく、廊下等にも配置している。また、独りになれるようにサロンと称する場を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の写真を居室に飾ったり、家で使用していたダンス等を持参して、心地よく落ち着いて過ごせるようにしている。	使い慣れた家具(ダンス、机、椅子など)や、テレビ、家族の手作りの作品、写真、絵画などが持ち込まれ、利用者が居心地よく落ちついて過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の壁や戸に場所や矢印を書いて貼り、一人ひとりが安全に自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 下関市社協 グループホームしまど

作成日：平成 23年 11月 28日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	・自己評価する意義について、全職員が理解できていない。 説明ができていなかった。	・全職員が自己評価の意義について理解する。	・職員全員に対して、自己評価すること(日々のケア、業務を振り返るという意義がある)について説明し、理解を得る。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。